

伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
(抜粋)

2015 (平成 27) 年 10 月

伊 賀 市

## 4 基本目標と基本的方向・政策パッケージ

伊賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、以下の4つの基本目標を設定し、それぞれの取組を進めていきます。

また、4つの基本目標を達成するため、実施する各施策を「政策パッケージ」として類型化することにより、複数の施策による共通した成果（アウトカム）の発現を目指すとともに、成果目標に対する進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、取組を改善するしくみ（PDCA サイクル）を確立し実行します。

「政策パッケージ」の内容については、総合戦略策定後に行う効果検証の結果や国・三重県の動向を踏まえ、適宜見直しを行っていくことにより、4つの基本目標の達成に向けた最善策を追求していきます。

### 4つの基本目標

1. 男女問わず希望どおり働くことができる“伊賀”にする
2. 安心して子どもを産み、育てることができる“伊賀”にする
3. 生涯住み続けたいと思える“伊賀”にする
4. 来たい・住みたいと思われる“伊賀”にする

《基本目標3》 生涯住み続けたいと思える“伊賀”にする

ライフシーン・ライフステージごとの支援③ 【学ぶ・住む・健康に過ごす】

基本的  
方向

伊賀市まちづくりアンケートにおける定住意識調査では、市民の約7割の方が「今のところに住み続けたい」と考えており、人口減少に歯止めをかけるためには、「このまちにずっと住み続けたい」と考える市民をさらに増やす取組が必要です。

地域の公共交通を維持し、歴史文化や風土と調和した災害に強い生活基盤の整備を進めるとともに、将来を支える子どもたちが充実した教育を受けることができ、市民が生涯にわたって学びの機会を持つことができる文化活動が充実したまちづくりに取り組み、本市への愛着心の醸成を図ります。（ふるさとづくりの推進）

また、自治基本条例に基づく市民主体のまちづくりや、全国的にも比率の高い外国人住民が地域の一員として参画できる多文化共生社会の形成を推進します。

さらに、広域連携の観点から、定住自立圏構想、伊賀市・甲賀市・亀山市広域連携推進会議（いこか連携推進プロジェクト）など、近隣自治体と連携し、伊賀地方（ビッグ伊賀）の人口減少対策にも取り組みます。

課題

- 定住を希望する市民の割合が約7割
- 就学・就職を機に転出する若者の増加
- 子育て世帯、高齢者の転出超過

取組の視点

- コンパクトシティ・プラス・ネットワーク、小さな拠点の形成
- 地域が地域の課題を解決できるしくみづくり
- 郷土愛の醸成
- 安心安全なまちづくり

KPI指標

	現状値（基準年）	目標値（基準年）
ア. 生涯伊賀市に住み続けたいと思う市民の割合	ア. 7割（平成26年度）	ア. 8割（平成31年度）
イ. 近隣自治体との社会増減（転入増・転出減）	イ. -200人（平成23～25年の3カ年平均）	イ. -150人（平成28～30年の3カ年平均）
ウ. 連携する自治体全体での人口減少率	ウ. -1.4%（平成17⇒22年）	ウ. -1.3%（平成27⇒32年度）※ ※平成22⇒27年の状況により見直しあり

確認方法

- ア. 伊賀市まちづくりアンケート（市民意識調査）
- イ. 住民基本台帳
- ウ. 国勢調査

政策パッケージ

- 3-① **市民が主体となった伊賀流自治のしくみによるまちづくり**
- 3-② **多核連携型の都市構成と交通ネットワークの整備**
- 3-③ **健康で、安心な医療・介護が受けられ、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり**
- 3-④ **人口減少等を踏まえた既存ストックのマネジメント強化**
- 3-⑤ **広域的な連携による経済・生活圏（ビッグ伊賀）の再形成**
- 3-⑥ **住民が地域防災の担い手となる環境の確保**
- 3-⑦ **郷土愛を育むまちづくり**

## 施策と事業例

### 施策（１）

#### 魅力ある中心市街地づくり

- ・ 中心市街地活性化事業
- ・ 駅前広場を活用したマルシェ開催事業

### 施策（２）

#### 城下町の景観を守り活かす体制づくり

- ・ 街なみ環境整備事業  
(景観修景助成事業)

### 施策（３）

#### 個店の機能強化と商店街機能の充実

- ・ 個店魅力創出事業
- ・ 中心市街地等商店活性化事業

### 施策（４）

#### 地域核を結ぶ交通網の再編

- ・ 伊賀鉄道活性化促進事業
- ・ 自主運行バス運行事業
- ・ 地域交通対策事業

### 施策（５）

#### 交通政策の計画的な推進

- ・ 伊賀市交通計画推進事業
- ・ 地域公共交通運営事業
- ・ 新しい交通システムの導入検討

### 施策（６）

#### 市内幹線道路・生活道路の整備

- ・ 社会資本整備総合交付金事業

### 施策（７）

#### 道路環境の維持・向上

- ・ 橋梁修繕事業及び幹線市道の  
維持補充事業

《基本目標3》生涯住み続けたいと思える伊賀にする  
 ライフシーン・ライフステージごとの支援③ 【学ぶ・住む・健康に過ごす】

政策 3-③ 健康で、安心な医療・介護が受けられ、誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

概要 すべての市民が心身ともに健康で自分らしく暮らし続けるため、保健・医療・福祉分野の専門職が連携し、必要とする「人・時期」に必要な量の医療・介護サービスが提供される体制を目指します。  
 また、市民の健康意識を醸成し、健康づくりや介護予防などに関する諸活動を促進することにより、健康寿命の延伸を図ります。

課題 ●全国平均よりも健康寿命が短い 取組の視点 ○ライフステージごとの生活習慣病などへの取組

		現状値（基準年）	目標値（基準年）
KPI指標	ア. 伊賀市の健康寿命	ア. (H25) 男性 81.83歳 女性 85.26歳	ア. (H30) 男性 82.52歳 女性 85.94歳
	確認方法	ア. 第3次地域福祉計画に基づく健康寿命の算定方法	確認時期 毎年度 10月

施策と事業例

施策（1）  
市民主体の健康づくり活動を支援する体制づくり  
 ・ 自助・共助・公助協働による健康づくり推進事業

施策（2）  
市民一人ひとりが健康で健やかに暮らせる環境づくり  
 ・ 健康づくり推進事業

施策（3）  
疾病等の早期発見・早期治療につながる体制づくり  
 ・ 健康診査（二次予防）事業

施策（4）  
地域医療の充実  
 ・ 二次救急医療体制の確保  
 ・ 応急診療所の運営  
 ・ 医師の確保

施策（5）  
医療・介護サービスが一体的に提供できる体制づくり  
 ・ 介護予防普及啓発事業  
 ・ 認知症施策総合推進事業  
 ・ 保健・医療・福祉の連携体制構築事業